

(2) 西土佐中学校

学 校 長 大橋 更三
校内研究代表者 宮本 教子

1. 研究主題

「レッツチャレンジ西土佐っ子」
[自ら学び、かかわり合い、自分の思いを表現できる生徒の育成]
～見方・考え方を働かせて主体的に学び合う授業づくり～

2. 主題設定の理由

昨年度、本校は「自ら学び、かかわり合い、自分の思いを表現できる生徒の育成～見方・考え方を働かせて学びあう授業づくり～」をテーマとし、生徒一人ひとりの実態に合わせた授業づくりをベースに取り組みを行ってきた。チーム会では「つけたい力を目指したためあて」を意識した授業づくりの協議を行い、各教科の専門用語を意識した授業づくりの推進や ICT 活用についても教員全体で取り組んだ。しかしながら、生徒の主体性を引き出すことのできる単元計画・授業づくりには依然課題が多く、各種学力調査でも学力面の課題が残る結果となった。そこで、本年度も引き続き、生徒だれもがやる気が持てる・できる・わかる授業づくりを行うため、小中連携教育を柱に、「生徒が中心の主体的な授業づくり」「分かったこと考えたことを自分の言葉で表現し書くことができるようにする指導の充実」「見方考え方を働かせ、思考を深める授業づくり」の3点を中心に授業改善に取り組み、生徒が主体的に学ぶ能力ベースの授業を実現するべく、今年度、上記のような本主題を設定した。

3. 研究の進め方と方法

【仮説】

見方考え方を働かせて、生徒に付けたい力を明確にした能力ベースの授業づくりを行えば、子ども達自らが課題意識をもち、課題解決に向けて主体的に動いたり、相手意識をもって自分の思いや考えを伝え合い、根拠を示して説明したりすることができるであろう。

(1) 全校研・教科間連携における取組

- ・週時程に位置づけた週1回のチーム会を実施し、学習指導要領の理解と授業研究を行い、全校研で自校の目指す授業について学び合うサイクルを定着させる。
- ・授業改善プランのポートフォリオシートを活用し、全教員で、自校の目指す授業について協議し合う。
- ・授業改善プランを活用し、教材研究や授業研究をチーム会で検討する。また改善プランの協議に教科担当者とともにチーム会メンバーの代表者も参加することで、チーム全体での授業改善につなげる。
- ・道徳の授業づくりの研究

(2) ICTの効果的な活用および教育DXの取組

- ・タブレット、AIドリルを活用し、基礎基本のさらなる定着と個別最適化を図る。ICT活用の研修を校内研修に定期的に位置づけ、効果的な活用方法について教員同士で学び合うサイクルを定着させる。

(3) 連携教育の取り組み

- ・年4回の交流を行い、保小中での研修を通して、3部会の取り組みの共通認識を図り実践する。
- ・西土佐地域の子どもたちの実態を関係者で共有し、つけたい力と目指すところを明確にして、各校所・地域との連携した実践研究を推進する。

【実践内容】

①〈生徒が中心の主体的な授業づくりの取組と教育DX〉

授業づくりは主にチームで取り組み、改善プランや公開授業などの指導案の検討を重ねた。特にクラウドを活用した他者参照や共同編集などは各教科の特性に合わせた活用方法をチームで話し合いを進め、つけたい力にあった活用方法かどうかにかぎらずに話し合いを進めた。体育のバレーボールの研究授業では生徒が共有ノートで動画を撮影し、意見交流したり、音楽の歌舞伎の授



業で資料共有や他者参照をしたりすることを取り入れるなどの実践について協議することができた。

② 〈分かったこと考えたことを自分の言葉で表現し書くことができるようにする指導の充実〉

幡多道徳教育研究大会究発表校として、主に道徳の授業改善において取り組みを行った。高知大学の森先生や西部教育事務所の指導主事をお招きし、生徒が多面的多角的に考え、友達と意見を交流し考えを深める活動をどのように行っていくかを研修し、各学年で協議を深めた。他者参照や意見交流後に時間を確保して、さらに個人でもう一度考えさせ表現

させることを徹底するように意識して取り組んだ。他の教科でも、ICTを生徒の実態に合わせてどのように効果的に活用させるか、自分の考えを効果的に表現する方法を選ばせるか、交流においてどのような方法が効果的であるか等について協議し、授業改善に取り組んだ。

(柱2) 分かったことや考えたことを自分の言葉で表現



③ 〈見方考え方を働かせ、思考を深める授業づくり〉

チーム会での授業検討や、講師との研修を深めることで、教員の学習指導要領への理解も深まりがみられた。研究の柱①②と合わせて、授業についてチームで検討を重ねることで、毎回どのような力をつけたいのかに立ち戻り協議を深めることができた。生徒の思考の表現方法をノートに書かせるだけでなく、図を使う、タブレットを使う等、生徒自身に選択させ、どの要素を思考判断のよりどころとするのか、指導事項はそもそも何なのか、その選択が重要であるということ

④ 〈保小中高地域連携教育の体制の整備と「めざす子ども像」「つきたい力」の絞り込み〉

年4回の小中合同研修では、連携の組織を見直し、知・徳・体の3部会を、「遊び・生活・理科」「総合的な学習」「連携カリキュラム」の3つに再編し取り組みを行った。どのような能力の育成を目指すのかを全体で共有するため、昨年の話し合いで作成した西土佐地域版子どもの育成目標&保小中連携カリキュラムを確認した。さらに四万十市のこどもの育成目標「しまちる」と、西土佐の育成目標の重なる部分を見直し、さらに具体化した一覧を製作した。

目指す資質・能力とは？

項目	知	徳	体	総合的な学習	連携カリキュラム
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
39					
40					
41					
42					
43					
44					
45					
46					
47					
48					
49					
50					

3部会では細かな連携を行うための協議を進め、「遊び・生活・理科」部会では、保育園のころの遊びや野菜栽培・昆虫探し、地域学び等の体験が小学校の生活科や小中学校の理科のつながることの共有を行った。総合的な学習の部会では、これまで中山間の指定事業等で作成、取り組んできた小中9年間のカリキュラムの改善や見直しを行い、西土佐地区独自のふるさと教材をどう生かしていくかを協議した。連携カリキュラム部会では西土佐地域版子どもの育成目標&保小中連携カリキュラムの内容や進捗の確認を適宜行い、各保小中の取組を確認し合い、協議し、それぞれの保小中の横のつながりと、目指す育成能力に向けた具体的な取組を見直した。

4. 今年度の成果と課題

【成果】

- チームでの授業改善に取り組み、学習指導要領に立ち返ることで、つきたい力を明確にした授業づくりが意識できた。
- チームで共有することにより、生徒の状況に応じた効果的な授業DXについて考えることができた。

【課題】

- 学力調査等では知識技能の項目に課題がみられる。
- 個別最適な学びの推進とデータの活用
- 地域連携・学校連携の継続的な取組

【来年度に向けて（改善策）】

- 生徒の主体性を引き出すことのできる課題設定・単元計画・授業づくりの工夫
- 保小中高を通じた系統的・計画的な取組

●学校生活アンケート (中学校1～3年生) R7.7月と12月の肯定の比較 (34)

項目	7月	12月	増減
分かったことできるように なったことさらに考えたいこと等を自分の言葉で表現することができた	80.6	91.8	+11.2
学習内容を理解し、身につけることができる	83.3	91.9	+8.6
授業中タブレット端末を効果的に活用できていますか。	100	94.6	-5.4